

日本ではマイナーなスポーツのクリケット
インドでは国民的スポーツ、だけではありません！

メイド・イン・インド ～クリケットはインドの一大産業～

▶ クリケットがオリンピック競技に

2028年のロサンゼルス五輪では5競技の追加実施が決定しましたが、その中の1競技がクリケットとなりました。クリケットは1900年にパリ五輪で実施されて以来、実に128年ぶりの五輪復帰となります。

クリケットの発祥はイギリスですが、旧大英帝国時代に植民地だったインドにも伝わりました。板と球があれば手軽に出来ることから貧困層の多いインドでも簡単に出来るスポーツとして広まり、今ではインド国内で絶大な人気を誇るスポーツとなっています。

▶ インド14億人の夢

インドのモディ首相は「インド14億人の長年の夢だ」として、2036年の夏季五輪の招致を目指すことを表明していますが、国民的スポーツであるクリケットが2028年の五輪競技に復活したことで、五輪招致に向けた機運もより高まることが予想されます。また五輪開催ともなれば、様々な施設の建設など多くの投資が期待されます。課題のインフラ整備促進に繋がることも期待されます。実際、モディ首相の地元である西部グジャラート州では2022年の議会選で与党のインド人民党が五輪開催に向けたインフラ整備などを公約に掲げて大勝しました。

▶ クリケットは一大産業

2023年の11月中旬までクリケットのワールドカップがインドで開催されていましたが、大会観戦のため国内外から多くのファンが訪れ、大きな経済効果がもたらされました。クリケットのワールドカップは、世界的にも視聴者数が多いスポーツイベントとも言われ、多くのインド国民も視聴しました。

またインドでは2008年にクリケットのプロリーグ「インディアン・プレミアリーグ（IPL）」が発足していますが、今では、その実力や収入面で世界最高峰のリーグと言われ、世界的企業がその宣伝効果を狙いスポンサーに名乗りを上げています。国内外へのテレビやインターネットなどでの放映権は世界のプロスポーツではNFLに次いで2番目に高額とされ、2023年から2027年の配信権は総額で約4,839億ルピー（約8,500億円）となっています。

今やインドにおけるクリケットは単なる国民的スポーツだけではなく、巨額の資金が動く一大産業となっているのです。

クリケットを楽しむインド人



値上がりするIPLの放映権料と権利獲得企業

2023～2027年	(5年) 約4,839億印ルピー
	ディズニー・スター、 バイコム18（印リライアンス系）など
2018～2022年	(5年) 約1,634億印ルピー
	ディズニー・スター (元スター・インド)

出所：各種資料を基にバインブリッジ・インベストメンツ作成。

画像はイメージです。

*New India,
New Industry!*

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会